

ブタの麻酔薬の調整と麻酔手順

ブタは表在静脈が少ないのと興奮しやすいため、麻酔導入薬を筋肉内投与するのがお勧めです。

○麻酔導入薬（カクテル麻酔）の調整

ミダゾラム 0.5mg/kg (0.1ml/kg) + メデトミジン 0.02mg/kg (0.02ml/kg) を同じシリンジに調整する。

調整したシリンジにエクステンションチューブをつけ、その先に注射針をつけて延長する。

○麻酔手順

①ブタをケージから輸送カートに移し、処置室に移動する。

②カートの上から、調整した麻酔導入薬を筋肉内投与（IM）する。

③5～8分くらいで横になり、軽く不動化できる。

※もし、10分経っても横にならない場合は、前投薬の同量を追加投与する。

④不動化したら、カートごと術台横まで運ぶ。

⑤術台にブタを乗せ、吸入麻酔薬のイソフルランを約2～3%でマスクにて嗅がせる。

この際、準備した麻酔器の設定より換気回数を5～10回程増やすようにする。

※術台に移動している間や術台に乗せようとしてブタが動くようなら、カート内にて5%イソフルランをマスクで嗅がせる。

⑥SpO₂プローブを尻尾に装着し、数値を確認しながら耳から点滴ラインをとる。

※心拍数が下がってくるようなら、イソフルランの濃度を少し下げる。

⑦横臥のままか仰臥位に体位を変えて、吸入のマスクを外し気管挿管する。

※喉頭鏡操作をしている際に噛んだり頭を振るようであれば、一旦操作を中止しキシロカインスプレーを喉に吹きかけ吸入麻酔を再開する。もしくは、導入薬の半量を耳のラインから静脈内投与（IV）する。

⑧気管挿管できたら抜けない様に挿管チューブを固定し、麻酔器の設定を戻して吸入麻酔を開始する。

⑨ブタを手術のための体位にし、必要によって四肢を縛って固定する。

⑩必要によって心電図を付け、導尿カテーテルや鎮痛座薬を入れる。

⑪バリカンにて必要部位の剃毛を行い、イソジンにて切開部を広範囲に消毒する。

○麻酔薬の準備

- ・ミダゾラムの商品名：ドルミカム、ミダゾラム
- ・メデトミジンの商品名（動物薬）：ドミトール、ドルベネ
- ・キシロカインスプレー
- ・イソフルラン商品名：フォーレン、イソフルラン（ジェネリックが安価）
- ・鎮痛座薬の商品名：レペタン座剤 0.2 mg